

用語解説

府立木津川運動公園（北側区域）の基本計画に記載されている用語のうち、専門的な用語や十分に定着していない用語などについて、その解説を記載しています。

あ

I o T

「Internet of Things（モノのインターネット）」の略称で、家電、自動車、ロボットなどあらゆるものがインターネットにつながり、情報をやりとりすること。利便性が向上したり、新たな製品・サービスが生み出されている。

え

A I

「Artificial Intelligence（人工知能）」の略称で、学習・推論・判断といった人間の知能の機能を備えたコンピュータシステムのこと。人間と比肩するようなAIは開発されていないが、様々な分野で活用され成果を上げている。

A R

「Augmented Reality（拡張現実感）」の略称で、実際の景色、地形、感覚などに、コンピュータを使ってさらに情報を加える技術のこと。

S N S

「Social Networking Service」の略称で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。Facebook、Twitter、Instagram、LINEなどのサービスがある。

S D G s

「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓うものこと。

お

お茶の京都

日本茶文化を創造し、全国に普及させてきた「宇治茶」や茶畑景観等の山城地域（宇治市、

城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村）の価値を再認識し、さらに磨きをかけ、世界に向け発信することにより、多くの人が訪れる大交流圏を創出し、日本の茶文化の一大拠点にする取組のこと。

か

稼働率

体育館など場所貸しをする施設において、府民が利用できる時間枠数に対して実際に利用された時間枠数の割合

官民連携（PPP）

公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間（民間事業者、民間団体等）が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの。

き

京都やましろ茶いくるライン

「お茶」の歴史に深く関わる拠点が「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産に認定されたことから、その拠点等を自転車で周遊するルートを設定し、府と市町村共同で整備（誘導ラインや案内看板等）したもの。

こ

公園運営のスマート化

公園管理にIT技術を活用することで、安心・安全で環境にも配慮した公園とすること

高齢化率

総人口に対する高齢者（65歳以上）の割合

し

需給状況

府民がその施設を利用したいという「需要」と、施設がどの程度「供給」できているかのバランス

す

ストック効果

整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。

スマートインターチェンジ

高速道路のパーキングエリアなどから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定

スマートシティ

都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつマネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区

そ

Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)
狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

は

パーソナルモビリティ

まち中での近距離移動を想定した1~2人乗りの小型電動コンセプトカーなどを指す次世代自動車の概念

ふ

VR

「Virtual Reality(仮想現実)」の略称で、コンピュータが生成した仮想的な空間をあたかも実世界であるかのように体感することができる技術のこと。

フィールド実験

一般の人々を対象に、家庭や職場など日常生活の場面を実験場にして実施される経済学の実験研究

ね

年少人口割合

総人口に対する0~14歳人口の割合